



2年生が教えます!「学校探検」

本日(火)は、1年生と2年生の学校探検が行われました。2年生にとっては、教室や特別教室、学校を支えている人々や学校生活の楽しさを1年生にわかりやすく教える絶好の機会となります。1年生にとっては、楽しく学校生活を送るために、学校生活を支えている人々がいることや頼りになる上級生の存在に気付くきっかけとなるわけです。



実は、先週から2年生が校内をリハーサルしている姿を発見していました。その本番にあたる今日は、校長室前で2年生の子供が1年生にクイズを出していました。「ここが校長室です。校長先生の名前は、あらかき たかのぶ先生です。水そうの中には、ウーパールーパーがいて、・・・。」その説明を1年生も真剣に聞き、質問などをしていました。学校生活の楽しさを教える活動を通して、グループごとに1年生をしっかり見守ろうとする2年生の態度が立派でした。また、他の学年が授業中なので、大声を出したり走ったりして、迷惑をかけないようにと呼びかける先輩のアドバイスを素直に受け入れる1年生の姿も素晴らしかったです。

●ひこうきぐも✈ vol.20

ドイツを旅して思ったことは、ドイツ人は旅行者にとっても親切だということです。またドイツ人の若者とは、世界中の至る所で出会います。彼らの旅行スタイルは、その殆どがバックパッカーといって、大きな登山用のバッグを背負い、ラフな格好で歩き回るので。そういうことから旅行者に親切なのかもしれません。

またドイツ人と日本人は国民性がよく似ているとは、よく言われてきたことですが、今回の旅を通してそのことが実感できました。私自身、旅をした中で一番居心地がよかった国を一つ挙げるとしたら、ドイツです。普通のレストランに入っても清潔感があり、店員の愛想がいいのです。ただ一つ大きな違いは、相席が当たり前で、気持ちよく席を詰めてくれることでした。気が合えばその場で乾杯し、互い気の済むまで飲み交わすこともできました。ガストハウス(地元の人を相手にした居酒屋兼食堂)に行けば地元のおじいさんたちとカードゲームに興じることもありました。そこではお互いにビールをおごったりおごられたり、気持ちよく飲み、おいしく食べることができました。このままずっとドイツにいたいという気持ちにもなりましたが、そういう訳にもいかず、後ろ髪を引かれる思いで、次の目的地を選んだのです。

次の地は、イタリアのローマを選びました。得意の寝台列車でローマに向かったのですが、私の下のベッドのイタリア人が夜遅くまでずーっと喋りかけてきたので、なかなか眠りにつくことができませんでした。彼は「俺はアメリカに1軒、イタリアに2軒店を構えているが、アメリカではよくレーガン(元大統領)も来ていた。もし近くにきたら寄ってくれ。」というようなことを言いました。これは、イタリア人にありがちなおぼらふきだったんでしょうか？



現地の人と飲み交わす

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。バックナンバーは昨年度からの累積です。